

ADPISA 2026年度 シラバス

■ 基本情報

科目名	情報システム分析基礎
科目番号	302
担当講師	鎌田 真由美
分類	必修
科目総時間	7.5
対面/OL 日数	1日

■ 科目の説明

授業の概要	情報システム開発の上流工程について、その位置づけと目指すところを動画にて視聴し、基本的な知識を得る。対面授業においては、ソフトウェア工学の典型的な課題の1つである「自動販売機の更改」について、発注者(施主)側と受注者(システム開発社)に分かれて、「なぜこの要求が重要なのか」「この要求を実現することが誰にとって意味があるのか」という視点をもって要求分析を行い、次工程のための仕様書を作成する
特色とメリット	実際のシステム開発では技術要素以前に、ビジネス的、業務的な要素で要求が絞り込まれ、予算と期間の制約でさらに具体化される。本講義ではその過程を疑似体験し、可視化手法やAIの手助けも得て、発注者にとっても受注者にとっても受け入れ可能な要求に絞り込んでいくことを体験する。これにより、システム開発の現場でよりスムーズに意思疎通を図るための方法を体験できる。
学習目標	1) システム開発工程における要求分析の意味と役割を説明できる (ビデオ講義) 2) 分析手法を用いて要求の優先順位付けができる 3-A) システム発注者の立場でアンケートやゴール指向分析の手法を用いて、その理由と根拠を提示できる 3-B) システム受注者(開発者)としてインタビュー手法により発注者の要求を理解し、適切な提案を提示できる 4) コンテキストダイアグラムが作成できる 5) ユースケース図あるいはフローチャートで1つ以上の開発要求を記述できる
受講の前提条件	・ 情報システム学(エントリー編)を受講していること ・ 事前学習動画を視聴していること

■ 学習設計(内容と時間の対応)

回	学習内容	時間(分)	種別	備考
1日目 事前学習	要求定義の基礎をビデオ講義にて学習する	60	動画作成	
1日目	① 課題の「自動販売機の更改」問題について理解する ② グループに分かれて受注者側と発注者側で要求分析と可視化を行う ③ 両社のコミュニケーションを通して開発する要求について確定させる ④ コンテキスト図を作成する ⑤ 優先度の高い要求についてユースケース図あるいはコンテキスト図を作る ⑥ グループワークの結果発表と相互コメントを行う	360	対面/OL	
1日目 事後学習	相互コメントを受けて授業の振り返りを行う	30	その他	気づきシート
合計		450		

■ 参考文献

参考文献・オンライン科目	・ 要求工学実践ガイド 一般社団法人情報サービス産業協会 (発行 株式会社近代科学社、ISBN978-4-7649-0457-6)、要求工学REBOK (一般社団法人 情報サービス産業協会) https://www.jisa.or.jp/it_info/engineering/tabid/1165/Default.aspx
--------------	---